

## 教育学部教職支援室の活動報告（2）

森 藤 悦 子 [鹿児島大学教育学部教職支援室]

土 田 理 [鹿児島大学教育学系（理科教育）]

### A report on the activities of a teaching profession support room (2)

MORIFUJI Etsuko・TSUCHIDA Satoshi

キーワード：全学対応、キャリアカウンセリング、教員採用試験、リピーター、気持ちの変化

#### 1. 1. はじめに

教員の仕事量の多さ、教員の働き方という言葉が最近よく聞かれ、教員の仕事は大変だという認識が広まりつつある。そして、教員の数が足りないというニュースも今年になり、よく報道されるようになった。しかしながら、教員採用試験は、筆記試験、グループワーク、集団討論、面接、場面指導、論作と多様化しており、教師を目指している学生にとって、正規の教員になるのは、とても厳しくなっている。南日本新聞によると、文部科学省の調査では2016年3月に教員養成系大学・学部を卒業した教員就職率は鹿児島大学では44%であり、その時の採用試験の競争率は、鹿児島県は10.9倍で全国1位であった。このような状況下にあっても教員を目指す学生に対し、少しでも力になればと教職支援室では支援を行っている。

今回は、前回に続き教職支援室の利用状況、支援内容とともに、新たに利用後の学生の気持ちの変化についても報告する。

#### 2. 1. 支援体制と支援内容

教職支援室は、特任専門員1名が週5日25時間の勤務の中で学生の支援を行っている。特任専門員は、小学校、特別支援学校等での勤務や在外での生活経験があり、上級教育カウンセラー、学校心理士、臨床発達心理士の資格も有している。また、非常勤講師として他学部生向けの学校教育相談と生徒・進路指導論を担当している。

学生のニーズに応じて教職に関する支援を全学対応で実施している。支援内容は、教職に向けてのキャリアガイダンス、カウンセリング、資料や書籍の整備などである。相談等を実施する場所は、主に教育学部理系研究棟学生支援ゾーンの教職支援室である。相談は原則として対面で予約制であるが、予約のない時間は随時受け付け、状況に応じてメールでも対応している。28年度は、対面対応が433回90%、メール対応が49回10%であった。

## 2.2. 利用状況

### (1) 利用回数

表1は平成25年度からの利用回数の推移である。26年度からは利用回数が増加となっている(表1)。26年度から積極的に大学の教育実践総合センター教員と連携をとり支援室を紹介した。また、学生係とも連携し、新入生のオリエンテーションや3・4年生対象の就職ガイダンスなどでも、支援室の紹介を積極的に行ってきた。他学部生に対しては他学部向けの授業の中で紹介したり他学部にポスター掲示を依頼したりした。この結果、教職支援室の存在も学生に認知され、利用回数も増加したと考えられる。月別の利用回数では、7月8月10月の利用が多く、9月が少なくなっている(表1)。7月8月が多いのは、教員採用試験対策であり、9月が少ないのは、教員採用試験もほぼ終了し、教育学部では実習に入るためである。10月にまた、増加するのは、実習が終わり来年度の採用試験に向けて3年生が動き始める時期になるからと考えられる。

表2は平成27～28年度の学部別利用回数である。利用回数は、教育学部で82%を占めているが、全学対応しているため他学部の利用も18%となっている(表2)。

表3は、平成28年度の利用者数と利用回数であり、利用者数は、94名であり、利用回数も1回から多い学生は21回にも及んでいる。その結果2回以上のリピーターの割合は66%となっている(表3)。28年度1回利用者の中でも29年8月までに再度利用した学生も10名おり、28年度1回利用者の31%は29年8月までに再度利用している。

### (2) 支援内容

#### ① 学生の相談・キャリアカウンセリング

表4は支援内容についてである。この他にコンサルテーションやコーディネーション、情報収集として資料の選択や準備、貸し出しも行っている。教員採用試験対策関連相談では、自己申告書や願書の書き方、添削、論作文の添削、面接対策も行っている。最も多いのが、教員採用試験に関する相談であり、28年度は56%を占めていた。その他の相談も18%、進路相談も16%となっている(表4)。

表1 月別利用回数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
25年度	3	5	1	5	8	3	5	9	10	11	20	12	92
26年度	24	48	23	30	32	13	35	28	33	57	33	16	372
27年度	37	46	53	75	46	17	50	33	60	28	18	41	504
28年度	38	37	50	43	66	19	56	34	31	23	41	44	482
29年度	45	37	50	53	76								261
25～28年計	102	136	127	153	152	52	146	104	134	119	112	113	

教職支援室の相談については、次のようなスタンスで行っている。

- ① 進路についてどのような悩みを抱えているか、どのような進路を考えているのか、じっくり聞き、学生が納得いくまで相談を受ける。
- ② 一生のスパンで仕事を選択するよう考えさせる。特に女子学生にとっては、結婚、出産、子育ての環境等、よく考えるように促す。
- ③ 教師を目指すとしたら、教師として成長できるように支援していく。
- ④ 採用試験を通して教師として仕事をしていけるという自信が持てるような支援をする。
- ⑤ 採用試験の勉強をすることによって、いろいろなことに興味を持てるよう働きかけ、教師として必要な視野を広げさせる。
- ⑥ 結果として採用試験に合格できる。

表5は、教員採用試験対策関連相談内容の内訳である。最も多いのが一次の筆記試験対策であり、47%を占めている。一般的に理系の学生は文系の国語や社会、一般教養が苦手で、文系の学生は、理科や数学といったものが苦手で、どのような勉強をすればよいのかの相談が多かった。願書や自己申告書の書き方についての相談や添削も4%、19%となっている。二次試験の面接対策が26%で2番目に多くなっている（表5）。

表2 平成27～28年度 各学部別利用回数の割合

	教育	法文	理	工学	水産	農	計
利用回数	805	64	68	10	5	34	986
割合	82%	6%	7%	1%	1%	3%	100%

表3 平成28年度 利用者数と利用回数

回数	1	2～5	6～10	11～15	16～21	計
人数	32	30	18	6	8	94
割合	34%	32%	19%	6%	9%	100%

表4 支援内容

支援内容	回数	割合
教員採用試験対策関連相談	352	56%
進路相談	99	16%
その他	113	18%
報告	50	8%
資料	10	2%
計	624	100%

表5 教員採用試験対策関連相談内容

支援内容	回数	割合
筆記試験対策	167	47%
願書の書き方	15	4%
自己申告書の書き方	67	19%
論作文の書き方・添削	13	4%
面接対策	90	26%
計	352	100%

### 3. 利用後の学生の気持ちの変化

#### 3.1. 目的

利用についてのきっかけ、利用目的、利用後の気持ちの変化について知り今後の支援の在り方を検討することを目的とする。

#### 3.2. 方法

- (1) 調査対象者：教職支援室を利用した学生
- (2) 調査期間：平成28年4月～29年3月
- (3) 調査方法：利用後にアンケート用紙に記入
- (4) アンケートの内容（複数回答可）
  - ① 教職支援室利用のきっかけ
  - ② 利用しようと思った理由
  - ③ 利用して気持ちに変化があったか、また、変化の内容
  - ④ 再利用の希望

#### 3.3. 結果と考察

回答のあった142枚のデータを使用し、①については、利用1回目、2回目でアンケート記入が初回のものを使用し、②③については、アンケート全体を使用し、全体、初回、複数回の観点から分類した。

##### ① 教職支援室利用のきっかけ

表6は、利用しようと思ったきっかけである。アンケート記入1回目を対象にした。多い順に、友人からの紹介で23%、ポスター18%、教育学部の教職・就職ガイダンスも15%となっている。授業や教職実践講座、学生係、先生、友人、先輩からの紹介など紹介されて来室した割合は60%となっている（表6）。紹介してくれる人が多いほど支援の場が広がっていくことが見出された。

##### ② 利用しようと思った理由

表7は、利用しようと思った理由である。アンケート全体を対象とした。最も多かったのが、「教員採用試験に向けて何をどう勉強していいかわからなかった」で26%となっている。次に「教員採用試験に向けての計画を立てたい」で20%となっている。「不安になった時や迷った時、話を聞いてもらいたい」も15%となっている（表7）。

表8は、利用しようと思った理由の初回回答と2回目以降の回答である。初回と2回目以降では、利用しようと思った理由に変化がみられる。迷い悩んでいた初回から回を増すごとに進路が定まり、教員採用試験に向けて動き出している様子が表されている（表8）。教職支援室の設置目的である教職に向けてのキャリアガイダンスが達成されていると考えられる。

##### ③ 利用後の気持ちに変化とその内容

表9は、利用して気持ちに変化があったかについてである。教職支援室を利用し回答を寄せてく

れた学生の100%が気持ちに変化あったと回答している。その内訳は「やる気がでた」が最も多く、次に「安心した」「不安が軽減された」「気が楽になった」となっている（表9）。

教員になると決めたものの、採用試験に向けての勉強は、学生にとっては「やっても、やっても、きりが無い」ように感じるようである。勉強を進めるうちに、だんだんやる気が失せてきたり焦ったりした時に支援室を利用する学生も多かった。表7にあるように「不安になった時や迷った時、話を聞いてもらいたい」と思って利用したと思われる。リフレッシュして帰っていった学生が多かったことからこの結果は納得できるものである。「不安が増大した、気が重くなった」と答えた学生は、4年になる直前の3月に友達に連れられて初めて支援室に来て、採用試験の厳しさの現実を知った他学部の学生であった。しかしながら、この学生はカウンセリングやガイダンスを重ね、学習に頑張った結果、有料の講座に通うこともなく、F県の高校の採用試験に合格することができ現在教員をしている。

表6 利用しようと思ったきっかけ

1	教育学部の教職・就職ガイダンス	19	15%
2	電光掲示板	1	1%
3	ポスター	22	18%
4	授業での紹介	11	9%
5	教職実践講座での紹介	6	5%
6	学生係からの紹介	6	5%
7	先生からの紹介	13	10%
8	友人からの紹介	29	23%
9	先輩からの紹介	10	8%
10	その他	8	6%
	計	125	100%

表7 利用しようと思った理由（全体）

1	教職に就くかどうかで迷っていた	25	8%
2	学校種や受験地で迷っていた	24	8%
3	採用試験の勉強方法がわからない	78	26%
4	学習計画を立てたい	59	20%
5	学習のチェック希望	36	12%
6	不安になった時迷った時話を聞いてもらいたい	46	15%
7	アドバイスがほしい	33	11%
	計	301	100%

表8 利用しようと思った理由

		初回		2回目以降	
1	教職に就くかどうかで迷っていた	20	10%	5	5%
2	学校種や受験地で迷っていた	21	11%	3	3%
3	採用試験の勉強方法がわからない	59	30%	19	18%
4	学習計画を立てたい	38	19%	21	20%
5	学習のチェック希望	12	6%	24	23%
6	不安になった時迷った時話を聞いてもらいたい	26	13%	20	19%
7	アドバイスがほしい	21	11%	12	12%
	計	197	100%	104	100%

表9 利用後の気持ちの変化

		初回		2回目以降		全体	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
	あった	100名	100%	42名	100%	142	100%
1	やる気がでた	85	40%	36	32%	121	28%
2	安心した	49	23%	29	26%	78	18%
3	不安が軽減された	39	18%	29	26%	68	16%
4	気が楽になった	36	17%	19	17%	55	13%
5	やる気が失せた	0	0%	0	0%	0	0%
6	不安になった	2	1%	0	0%	2	0%
7	不安が増大した	2	1%	0	0%	2	0%
8	気が重くなった	2	1%	0	0%	2	0%
9	その他	0	0%	0	0%	0	0%
計		215	100%	113	100%	328	100%

#### 4. おわりに

平成22年度から24年度の特別教育研究費事業において平成22年度の「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用」(教育実践フォーラム2011)で三重大学の渡辺三枝子先生が「教員養成とキャリアガイダンス」という講演をされている。その中で教育学部生へのキャリアカウンセリングの必要性を次のように述べられている。

「対一の面接をむしろ教育課程の中に組み込んでいただいて、「やっぱり自分は教職に行くのか?」「行くに当たって、どういう垣根がありどういう思いでいるのか」「現実をどれだけ見られているのか」という個別指導を入れていただくと、学生は卒業してからの準備として役立つのではないかと思います。

しかしながら、本学においては、まだ教育課程の中には組み込まれていない。そのため、一人でも多くの学生に教職支援室を利用してもらうべく、積極的に教職支援室の紹介をしてきた。また、授業や教職実践講座、学生係、先生、友人、先輩からの紹介など紹介されて来室した割合は60%となっており、紹介してくれる人が多いほど支援の場が広がっていくことが見出された(表6)。教員、学生係の紹介も学生にとっては良い機会になっていることから、今後も教職員との連携をとっていくことが必要である。

進路問題、職業選択と学生にとっては、一生を左右しかねない問題であり、キャリアガイダンスやキャリアカウンセリングには丁寧な対応と準備が必要である。そのため学生との面談は、ほとんど1コマを充て、その後に記録している。表8からは、迷い悩んでいた初回から回を増すごとに進路が定まり、教員採用試験に向けて動き出している様子が表されており、教職支援室の設置目的である教職に向けてのキャリアガイダンスは達成されていると考えられる(表8)。

また、教職支援室を利用し回答を寄せてくれた学生の100%が気持ちに変化あったと回答している。その内訳は「やる気がでた」が最も多く、次に「安心した」「不安が軽減された」「気が楽になった」となっている（表9）。このことから個々の状況に応じた丁寧なキャリアカウンセリングが求められていることがわかる。「不安になった時や迷った時、話を聞いてもらいたい」と思って利用した学生にとって、教職についての専門性をもったキャリアカウンセラーが求められている。

今後の課題としては、8月など依頼が多い場合は、現在の勤務状況では時間の調整が困難であった。この時期だけでも面接対応できる人員の配置が求められる。また、他学部の教職希望者に対し、現在支援室の専門員が他学部向けの教職の授業をもっており、紹介はしているが十分とはいえない。全学対応の支援室として、大学や学部のホームページ等で教職支援室の存在を示していくことが挙げられる。そうすることで他学部生の支援もさらに可能になるのではないかと思われる。

教育学部の発行している「教員採用試験の手引き」についても教育学部の予算で作成されている。これは教員を目指す他学部の学生にも手に入れられるよう善処していただければと思う。

今後はさらに他の部署との連携を図り、利用者の合否や進路等を分析していく必要がある。

#### 引用文献

鹿児島大学教育学部「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用」平成22年度中間報告書 p 46

鹿児島大学教育学部「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用」平成24年度中間報告書 p 15

南日本新聞 2017年2月1日